



統計的因果推論: モデル・推論・推測

Judea Pearl 著 ; 黒木学訳. -- 共立出版, 2009.

ISBN: 9784320018778

REVIEWER

医学研究科 社会健康医学系専攻
M2

因果関係を「見える化」:

その変数、モデルに入れた理由は何ですか？

医学研究を始めると、ほぼ必ず回帰分析などのモデルを考えますよね？因果関係を明らかにするために、私たちはモデルを使いますよね。では、そのモデルに入れた変数は、どうして入れたか説明できますか？

この理由に関しては、一般的な医療統計の書籍には多くが書かれていません。せいぜい先行研究を参考にした、臨床的な経験から、などなどの理由にとどまっています。しかしながら、実際に研究を行う中では、この理由は明確である必要があります。そんな時に本書が良い導きをしてくれると思います。

本書では因果関係をグラフを用いて「見える化」することを推奨しています。注目している原因と結果の因子のほか、様々な因子がどのように因果関係に関係しているのかを図示していくのです。そしてそのグラフに基づいて解析の際のモデルを立てます。このグラフを描くことは、研究を行う自分自身の仮説の整理にもなりますし、ほかの研究者へ説明するときに説得力があります。ぜひ一読いただいて、参考にしてください。原著者曰く、「As X-ray are to the surgeon, graphs are for causation.」ということです。

邦訳版

原著第2版

(裏へ続きます)

417

P 31

医図開架



電子ブック



同時アクセス数



無制限

⇒⇒⇒

本書は因果推論の大家であり、この因果関係をグラフ化するというコンセプトを生み出したPearl先生の名著で、内容は非常に難しいです。ですので統計学やモデリングを学んだ上級者向けになります。中級者くらいの方は下記にあげたテキスト（1）を読んでから、本書にチャレンジすることをお勧めします。読むために体力を使いますが、得られるものはもちろん大きいです！

ちなみに、日本語訳本は原著初版に対応しており、原著では第2版が最新のようです。原著第2版の内容と日本語訳本の内容とは、ほとんど変わりはありませんが、原著第2版では第11章が追加されています。ここでは第1～10章までの総括を兼ねて、原著初版後に読者などから寄せられた質問に著者が答えていく形式をとっています。第11章は非常に勉強になりますので、日本語訳本のあとに原著第2版の第11章だけでもお読みになることを推奨します。

(1) 宮川雅巳著. 統計的因果推論：回帰分析の新しい枠組み. 朝倉書店. 2004.

<https://m.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac/BB01559536>



附図・経済等所蔵 (医図所蔵無)

受理：2019-02-15